

ベトナム文学『トゥイ・キョウの物語』の翻訳・出版

2012年
佐藤清二

ベトナム文学『トゥイ・キョウの物語』（別名：金雲翹）を詩人・黒田佳子氏と共訳し2005年3月に出版しました。この物語はベトナム人の心に触れる近道であるとも言われています。

著作名：トゥイ・キョウの物語（斷腸新聲・傳翹 Truyen Kieu）
原作：グエン・ズー（阮攸、Nguyen Du）
越英訳・脚注：レ・スアン・トゥイ（Le Xuan Thuy）
英和訳：佐藤清二・黒田佳子、発行：佐藤清二
発売：吉備人出版（電話086-235-3456）
仕様：A5 版上製 251 頁、ISBN4-86069-089-3 C0097
定価：1,680 円（本体 1,600 円） 発刊日：2005 年 3 月 9 日
取次：地方・小出版流通センター
備考：<http://homepage3.nifty.com/daovaquat/>で試読できます。



この物語は、グエン・ズー（阮攸、1765～1820）が、中国の通俗小説『金雲翹伝』（清・青心才人編述）から翻案した3,254行の長編叙事詩で、ベトナム文学の金字塔と言われています。『物語ヴェトナムの歴史』（小倉貞男著、中公新書）の中では、「一人のうら若い女性の波瀾万丈の悲しいストーリーに盛られた教訓は小学校から教科書に取り入れられ、ベトナム人はしばしばこの物語の文章を日常会話の中に交える」と紹介されています。

共訳者で詩人の黒田佳子氏は、「多くの日本人が見失った自分たちの判断の拠り所を考えさせてくれる。登場人物たちの描写は善人も悪人も生き生きとしていて、何度もの翻訳を経ても消えずに、なおも蘇ってくる力強い作品。一人の不運な女性の悲しみに読者も一緒に泣きたくするような生々しく人間臭い面も、人間の一生を無限の闇にポッカリ漂うカプセルのように感じさせる宇宙感も備えた物語」と巻末に書いています。

この物語を日本で紹介するのは、実は私たちが六回目となります。江戸時代、中国の通俗小説『金雲翹伝』をもとに、西田維則が翻訳小説『通俗金翹伝』（1763年）を、滝沢馬琴が翻案小説『風俗金魚伝』（1829年）を出しています。グエン・ズーの翻案叙事詩『斷腸新聲・傳翹』からは、小松清による仏語版からの重訳『金雲翹』（東宝書院、1942年）、竹内与之助による翻訳『金雲翹』（講談社、1975年）、秋山時夫による翻訳『金雲翹』（講談社出版SC、1996年）があります。

翻訳に当たっては、外国人読者を含め多くの方にとって読みやすいように、ルビ付き散文としてみました。音読にも適していると思います。

- 参考1 ベトナム版『トウイ・キョウの物語 (Truyen Kieu)』
- 参考2 図書館情報
- 参考3 詩誌『焰』第71号(2005・秋)
- 参考4 山形新聞(2005.6.10 夕刊)
- 参考5 出版ベトナム (Xuât Ban Viet Nam, 2005.5.19)
- 参考6 ベトナム文芸新聞 (Van Nghe, 2005.5.14)
- 参考7 出版ニュース (2005.5.上旬 p22)
- 参考8 ベトナム文化新聞 (Van Hoa, 2005.4.25)
- 参考9 リビングおかやま (2005.4.2)
- 参考10 Vision 岡山 (2005.4.1)
- 参考11 ベトナム労働新聞 (Lao Dong, 2005.3.27)
- 参考12 カフェサイゴン WEB マスターの感想文 (2005.3.22)
- 参考13 ベトナム国营ラジオ局 VOV ホームページ (2005.3.19 放送分)
- 参考14 日本海事新聞 (2005.3.16)
- 参考15 メコン通信 117号 (2005.3)
- 参考16 『トウイ・キョウの物語』紹介メディア等
- 参考17 『金雲翹伝』の伝播状況

参考1 ベトナム版『トウイ・キョウの物語 (Truyen Kieu)』

ベトナム語の題名は『Truyen Kieu (傳翹)』。

別名『Kim Van Kieu (金雲翹)』、『Kieu (翹)』または『Doan Truong Tan Thanh (斷腸新聲)』。私がい集めた本だけで十数種類あります。この本が、ベトナムでいかに広く長く読まれてきたかが分かります。



参考2 図書館情報

『トウイ・キオウの物語』を所蔵していると思われる図書館は次の通りです。

地域	図書館
北海道・東北	北海道（北海道立図書館、江別市情報図書館、石狩市民図書館、旭川市中央図書館、稚内市立図書館）、青森県（弘前市立図書館）、岩手県（岩手県立図書館、日本現代詩歌文学館）、宮城県（仙台市図書館、白石市図書館、多賀城市立図書館）、秋田県（ - ）、山形県（山形県立図書館、鶴岡市立図書館、長井市立図書館）、福島県（福島県立図書館、いわき市立図書館）
関東	茨城県（茨城県立図書館、ゆうき図書館、笠間市立友部図書館）、栃木県（ - ）、群馬県（群馬県立図書館、太田市立中央図書館、高崎市立図書館、みどり市立大間々図書館）、埼玉県（埼玉県立久喜図書館、深谷市立花園図書館、大東文化大学60周年記念図書館）、千葉県（千葉県立東部図書館、袖ヶ浦市立図書館、習志野市立図書館、成田市立図書館）、東京都（国立国会図書館、東京都立多摩図書館、葛飾区立図書館、北区立図書館、渋谷区立図書館、世田谷区立図書館、文京区立図書館、調布市立図書館、府中市立図書館、武蔵野市立図書館、実践女子大学図書館、中央大学中央図書館、立教大学図書館）、神奈川県（神奈川県立図書館、横浜市立図書館、相模原市立橋本図書館）
甲信越・北陸	新潟県（上越市立図書館、佐渡市立金井図書館）、富山県（富山県立図書館）、石川県（石川県立図書館、金沢市立図書館、能美市立図書館）、福井県（福井県立図書館、福井市立図書館）、山梨県（中央市立田富図書館）、長野県（長野県立長野図書館、長野市立図書館）
東海	岐阜県（岐阜県図書館）、静岡県（静岡県立中央図書館、静岡市立中央図書館、清水中央図書館、富士宮市立図書館、伊豆市立修善寺図書館）、愛知県（愛知県図書館、財団法人名古屋国際センター、犬山市立図書館、岡崎市立図書館、知多市立中央図書館、南山大学名古屋図書館）、三重県（桑名市立中央図書館、いなべ市大安図書館、鈴鹿市立図書館）
近畿	滋賀県（滋賀県立図書館、長浜市立高月図書館、野洲図書館）、京都府（城陽市立図書館、京都橘大学図書館、京都経済短期大学図書館、京都産業大学図書館）、大阪府（大阪府立図書館、大阪市立図書館、大東市立図書館、関西外国語大学図書館、追手門学院大学附属図書館）、兵庫県（英知大学図書館）、奈良県（ - ）、和歌山県（ - ）
中国・四国	鳥取県（ - ）、島根県（益田市立図書館、松江市立図書館）、岡山県（岡山県立図書館、岡山市立図書館、倉敷市立図書館、津山市立図書館、井原市立図書館、総社市立図書館、真庭市立久世図書館）、広島県（広島県立図書館）、山口県（山口県立山口図書館）、徳島県（徳島県立図書館）、香川県（ - ）、愛媛県（ - ）、高知県（ - ）
九州・沖縄	福岡県（福岡県立図書館、古賀市立図書館、柳川市立三橋図書館、みやこ町立図書館）、佐賀県（雄武市図書館歴史資料館）、長崎県（長崎県立長崎図書館、長崎市立図書館、諫早市立たらみ図書館）、熊本県（熊本県立図書館、熊本市立図書館、鹿本図書館）、大分県（ - ）、宮崎県（ - ）、鹿児島県（鹿児島市立図書館）、沖縄県（宜野湾市民図書館、名護市立中央図書館）

備考：蔵書検索による。

参考3 詩誌『焰』第71号(2005・秋)・・・書評 by 詩人なんば・みちこ氏

出典：詩誌『焰』第71号 pp96-98 (2005年11月30日、福田正夫詩の会編集発行)

『トウイ・キョウの物語』を読んで

なんば・みちこ

原作 ゲン・ズー
越英訳・脚注 レ・スアン・トウイ
英和訳 佐藤清二 黒田佳子

出会いというのは不思議な縁だとこの頃になって改めて思うのだが、この物語や佐藤清二さん、黒田佳子さんとの出会いもまた、不思議なご縁であった。

三月のある日、突然岡山県庁勤務の佐藤さんから電話があり、「岡山で出版記念会をするので出席してほしい」との依頼があった。

あとで知ることになるのだが、彼は中央から県へ出向して活躍している人であり、一ヶ月後の四月には国土交通省に復帰する人であった。そんなことは何も知らず、出版された本も読まないですぐに承知したのは、たまたま私が県詩人協会の会長職にあったことと、出版された本がベトナムの詩集だったことへの関心であった。

翌々日ご本人から分厚い本が郵送された。たまたま締め切り原稿が溜まっていたので、少しだけ目を通して、本格的に誘むのは二、三日後にしようと思いつきながら、ページをめくった。ところが、手放すことが容易でなくなり、ついには原稿書きを後回しにして一気に読んでしまったのである。

当日、佐藤さん夫妻に初めてお会いし、その時、黒田佳子さんを紹介された。黒田さんは小説家井上靖氏の娘さんだとのこと。何という喜び。井上靖の『全詩集』は、長い間の座右の書である。私は井上靖の写真の面影をすばやく、黒田さんのお顔に重ねていた。そして、右斜め前方からの表情が全く瓜二つであることを発見、独り感動したのである。黒田佳子さんは、翻訳家として、また北上しらゆり大使として活躍していらっしゃる詩人である。

ところで、文章でも詩でも原作の良し悪しはむろんであるが、翻訳の如何が格調も魅力も左右する。これほどまでに心を奪われたのは、原作者と英訳者の息がぴたりと合い、更に英訳者と和訳者二人の息が合った証拠と思う。即ち四人の息が通い合ったのである。

お二人から聞いたわけではないから想像の域を出ないが、何度も話し合いを重ね再考をくり返しながらか、ここまでに仕上げられたのだと思う。『トウイ・キョウの物語』が、プロローグで始まり、第一章から第二章まで、そしてエピローグからなる三、二五二行の膨大な詩編であることを思えばそのご苦労がうかがえる。

さて本論にはいろいろ。

この物語は、紅の頬を持つ美しい女性の出会う幸と悲運の物語である。人間の力ではどうにもならない悲惨な運命に翻弄されながらもその運命を受け入れ、たくましく生きる女性の姿が目に見えるように描き出される。だが、この物語に惹き付けられたのは、その物語の展開の斬新さだけではない。魅力の理由は、いくつもあるが、その一端を述べてみたい。

まず一つは、この物語の底流を流れる生き方への信条である。黒田さんも後書の「誓いの世界」で触れているが、現代の日本人は信条を失っていると言っても過言ではないだろう。どの時代にも誇りと白信、そして、信念と理想と愛があった。それがまちがった方向に進み敗戦を迎えたとは言え、いち早く一人ひとりが、自分の生きるよすがとなる信条を打ち立てる努力をしなければならなかったのだ。価値観も心も破壊されてしまった戦後は今もまだ続いている。そのことを黒田さんは、「日本の社会は、進むべき方向を見失って右往左往していると言われて久しくなります。それは多くの日本人が、自分たちの判断がどんな原理原則に基づいてなされているのかを、よく理解できなくなったために起きてきた現象ではないかと、私などは感じています。」と書いている。更に、「思想、宗教、時代、個人、社会に関係なく、迷ったら原理原則に戻って考え直さないと、この物語は説いているようです。そして、『戻って考え直す』にはどうすれば良いのか、その方法を教えてくれているように思えました」と。「原理原則」とは何か、それが、この物語に隠してあるのだ。私が先に述べた「生きる信条」と合い通じるものだと思う。

心を惹き付けられた二つめの理出は、二五〇を超える脚注に関わる引用の豊かさと深さである。中国の故事、古典的しきたり、伝承など豊富に盛り込まれており、脚注を読むだけでも楽しい。

三つめは比喩の豊かさである。比喩はこの作品を高度に仕上げていると同時に、深い意味と鮮明なイメージをもたらす効果をあげている。例えば、「深い悲しみ」を「腸の捻れた蚕のよう」「絹糸を吐き尽くす蚕のように日に日に青ざめ」とか、愛した人を忘れることがないように「蚕が繭から離れて死ぬことがないように」といった「蚕」に例えたものだけでもたくさんある。「銀色の月の兎が沈み、金色の太陽の鳥が傾いた」「緑蠅のようなざわめき」「鶯に燕の名前を与える」の表現等、粹を集めている。

四つめは、白然描写の鮮やかさと細やかさである。春の描写「妖精ハン・ガーの鏡とも言われる月は、網格子を透かして水面に映り、幾筋もの金色の線を延ばしていました。月光は木の葉越しに地面を照らし、東の塀の辺りでは、椿の花が穏やかに頭を垂れ、しだれた若枝に雫を落していました」等、春夏秋冬の美しい白然描写を挙げればきりが無い。

五つめはリズムの運びである、スケールの大きい散文詩の中に短い行変えの詩を入れて運ぶこの表現方法は魅力がある。実は、私も試みていて地域の冊子に四つの物語を書いている。私のは短編だが、このように長い物語詩として書いてみたいものと、大いに刺激された。日本にはこれほどスケールの大きい物語詩はまだないのではないか。

六つめの理由は全体を通して言わんとする物語の骨子である。人生には避けがたい運命があるけれども、幸運を導くのも不運を導くのもすべてが天の定めのみではない。その人の生き方や性格が深く関わってくる。生き方や性格は自ら節することも出来得るのではないだろうか。そんなことをも考えさせてくれる物語である。

もしも筋書きだけを追って読む人が通俗小説と思ったとしたら、それは大きなまちがいである。物語の中にある深い考えと読み取るには、たんねんに言葉の奥まで踏み込まねばならない。それが、詩の読み方だと思う。

『トウイ・キョウの物語』は、訳者の佐藤さんが言うように、何か生きる力を与えてくれる物語でもある。「ベトナムに関心を持つ人たちや生き方を模索している人たち、特に若い友に読んでもらいたい」という訳者の願いに私の願いも重ねている。

長井市上伊佐沢出身で、国土交通省職員の佐藤清二さん(46)は東京都在住だが、作家井上靖さんの二女で詩人の黒田佳子さん(60)と神奈川県横浜市在住と共同で、ベトナム文学の代表作「トワイ・キオウの物語」の翻訳本を出版した。エンジニアの佐藤さんにとっては初の翻訳で、五年前に仕事でハノイに滞在した折、現地で物語に触れたことがきっかけ。佐藤さんは「せひ多くの人に読んでほしい」と話している。



佐藤清二さん

物語は、クエン・ズー(二七六五―一八二〇年)が中国の通俗小説「金雲翹(きようせう)伝」を翻案した作品で、三千二百五十四行の長編詩。一人の若い女性の悲運に盛られた寓話(ぐうわ)で、ベトナムでは教科書にも出てくる有名な話。ベトナム文学の金字塔ともいわれる。

ベトナム滞在時に有名な話と聞き、和訳を探したものの、どうしても手に入れることができない。

ベトナム文学 日本人にせひ

長井出身 佐藤さん 翻訳本出版



かかったことが、翻訳に挑むきっかけになった。過去の数種類、和訳されたことがあるものの、

深い東洋精神に 触れられる名作

「何かができる」と話している。

単行本で二百五十二頁。千六百八十円。問い合わせは、古備人出版 0036(2nd) 3456。

佐藤さんが出版した「トワイ・キオウの物語」

内容が堅かったり、読み方が難しいなどの理由で、普及していなかったという。佐藤さんは「何が正しいのか、価値基準の揺らぐ現代日本にとって



Thêm một bản dịch TRUYỆN KIỀU sang tiếng Nhật

Ngày 17 tháng 3 năm 2005 vừa qua tại thành phố Okayama Nhật Bản, ông Seiji Sato và nữ thi sĩ Yoshiko Kuroda đồng dịch giả đã tổ chức giới thiệu cuốn Truyện Kiều của Việt Nam được ông, bà dịch sang tiếng Nhật. Gần 100 vị khách, gồm các quan chức, đại diện các cơ quan văn hoá, văn nghệ sĩ, nhà báo, bạn đọc Nhật Bản và thực tập sinh, lưu học sinh Việt Nam tại Nhật Bản đã đến dự.

Tại cuộc gặp gỡ long trọng và thân mật này, ông Vũ Hải Điệp – Tuỳ viên văn hoá Đại sứ quán Việt Nam tại Nhật Bản và bà Trịnh Thị Diệu – đại diện Nhà xuất bản Văn học đã giới thiệu với bạn đọc Nhật Bản về thi hào Nguyễn Du và tác phẩm Truyện Kiều, chúc mừng thành công của hai dịch giả Seiji Sato và Yoshiko Kuroda.

Đây là lần thứ tư Truyện Kiều Việt Nam được các dịch giả Nhật Bản dịch sang tiếng Nhật từ các bản tiếng Việt, tiếng Pháp, tiếng Anh.

Bản dịch lần này của ông Seiji Sato và nữ thi sĩ Yoshiko Kuroda dịch từ cuốn Truyện Kiều song ngữ Việt – Anh do Nhà xuất bản Văn học ấn hành. Ông Seiji Sato đã từng sang công tác ở Việt Nam và bà Yoshiko Kuroda có chồng đang làm việc tại Việt Nam. Hai đồng dịch giả cho biết họ đã dày công nghiên cứu và dịch Truyện Kiều vì sự cảm mến và mong muốn giới thiệu với bạn đọc Nhật Bản một tác phẩm đỉnh cao của nền văn học Việt Nam. Mặc dù, trước họ đã có một số bản dịch khác, song mỗi bản dịch với sự cảm nhận và phong cách khác nhau chắc chắn sẽ có những thành công khác nhau. Và hơn hết đó là vì tình cảm rất đặc biệt của họ đối với Việt Nam. Một tác phẩm mà có tới bốn, năm dịch giả dịch ra tiếng Nhật với rất nhiều công phu và tâm huyết là một điều hết sức cảm động và vinh dự cho văn hoá Việt Nam. Không phải chỉ vài ba năm hoặc sáu năm bỏ công sức ra dịch thuật mà các dịch giả còn tự bỏ tiền ra xuất bản và phát hành cuốn sách. Đó là những cử chỉ đồng văn hoá của các bạn Nhật Bản đối với Việt Nam. Cuộc gặp gỡ giữa đại diện Sứ quán Việt Nam tại Nhật Bản, và đại diện Nhà xuất bản Văn học với các bạn Nhật Bản diễn ra ngày 17 tháng 3 vừa qua tại thành phố Okayama một lần nữa thể hiện mối quan hệ tốt đẹp giữa hai nền văn hoá Việt – Nhật. Tin tưởng sự hợp tác văn hoá nói chung và văn học nói riêng giữa hai dân tộc ngày càng mở rộng và phát triển. □

■ ĐIỀU LAN

THÊM MỘT BẢN DỊCH SANG TIẾNG NHẬT

NGÀY 17 tháng 3 năm 2005 vừa qua tại thành phố Okayama Nhật Bản, ông Seiji Sato và nữ thi sĩ Yoshiko Kuroda, đồng dịch giả, đã tổ chức giới thiệu cuốn *Truyện Kiều* của Việt Nam được ông, bà dịch sang tiếng Nhật. Gần 100 vị khách, gồm các quan chức, đại diện các cơ quan văn hoá, văn nghệ sĩ, nhà báo, bạn đọc Nhật Bản và thực tập sinh, lưu học sinh Việt Nam tại Nhật Bản đã đến dự.

Tại cuộc gặp gỡ long trọng và thân mật này, ông Vũ Hải Diệp, Tùy viên văn hoá Đại sứ quán Việt Nam tại Nhật Bản và bà Trịnh Thị Diệu, biên tập viên Nhà xuất bản *Văn học* đã giới thiệu với bạn đọc Nhật Bản về thi hào Nguyễn Du và tác phẩm *Truyện Kiều*, chúc mừng thành công của hai dịch giả Seiji Sato và Yoshiko Kuroda.

Đây là lần thứ tư *Truyện Kiều* Việt Nam được các dịch giả Nhật Bản dịch sang tiếng Nhật từ các bản tiếng Việt, tiếng Pháp, tiếng Anh.

Bản dịch lần này của ông Seiji Sato và bà Yoshiko Kuroda dịch từ cuốn *Truyện Kiều* song ngữ Việt - Anh do Nhà xuất bản *Văn học* ấn hành. Ông Seiji Sato đã từng sang công tác ở Việt Nam và bà Yoshiko Kuroda có chồng đang làm việc tại Việt Nam. Hai đồng dịch giả cho biết họ đã dày công nghiên cứu và dịch *Truyện Kiều* vì sự cảm mến và mong muốn giới thiệu với bạn đọc Nhật Bản một tác phẩm đỉnh cao của nền văn học Việt Nam. Mặc dù trước họ đã có một số bản dịch khác, song mỗi bản dịch với sự cảm nhận và phong cách khác nhau chắc chắn sẽ có những thành công khác nhau. Và hơn hết đó là vì tình cảm rất đặc biệt của họ đối với Việt Nam. ■

C.T.V



ベトナム文学の 金字塔

ベトナム文学の代表作といわれる「トワイ・キオウの物語」(A5判・252頁・1600円)が刊行された。

この物語は、グエン・ズー(既収、1765?1820)が、中国の通俗小説「金雲翹伝」から翻案した3254行の長編詩で、ベトナム文学の金字塔と言われている。

『物語ズエトナムの歴史』(小倉貞男著、中公新書)の中では、一人のうら若い女性の波瀾万丈の悲しいストーリーラインに盛られた教訓は小学校から教科書に取り入れられ、ベトナム人はしばしばこの物語の文章を日常生活の中で交える」と紹介されている。

翻訳者の一人佐藤清二氏は02年頃ベトナムを訪れ、その時出会ったのがこの「トワイ・キオウの物語」。


和訳版も読みたいと思いきや、京で探したが入手できず、やむなく意を決して辞典片手に英訳版を読み進めたところ、「トワイ・キオウの物語」は何か生きる力を与えてくれる作品であることに気がついたと。

本書は、こうした佐藤氏の思いから翻訳(重訳)、そして個人出版へとこぎつけたもの。特に若い人に読んでもらいたいとの願いから、平易な日本語に訳し、漢字にはすべてルビが付いている。

また、『父・井上靖の一期一会』の著書がある詩人の黒田佳子氏が共訳に参加している。

佐藤清二発行、吉徳人出版
発売〒700-1002岡山市丸の内
2-11-22 ☎086-235-3456

参考8 ベトナム文化新聞 (Van Hoa, 2005.4.25)



編者「トウイ・キオウの物語」
訳出版記念祝賀会
～ 日越交流の歴史を語る ～

Dịch giả Seiji Sato (bên trái)

Thêm một bản dịch Truyện Kiều sang tiếng Nhật

Ngày 17.3.2005 tại TP Okayama, Nhật Bản, ông Seiji Sato và nữ thi sĩ Yoshiko Kuroda, đồng dịch giả đã tổ chức giới thiệu cuốn Truyện Kiều của VN được ông, bà dịch sang tiếng Nhật. Gần 100 vị khách gồm các quan chức, đại diện các cơ quan văn hoá, văn nghệ sĩ, nhà báo, bạn đọc Nhật Bản và thực tập sinh, lưu học sinh VN tại Nhật Bản đã đến dự.

Tại cuộc gặp gỡ long trọng và thân mật này, ông Vũ Hải Diệp, Tuỳ viên văn hoá Đại sứ quán VN tại Nhật Bản và bà Trịnh Thị Diệu, đại diện Nhà xuất bản Văn học đã giới thiệu với bạn đọc Nhật Bản về thi hào Nguyễn Du và tác phẩm Truyện Kiều, chúc mừng thành công của hai dịch giả Seiji Sato và Yoshiko Kuroda. Đây là lần thứ tư Truyện Kiều của VN được các dịch giả Nhật Bản dịch sang tiếng Nhật từ các bản tiếng Việt, tiếng Pháp, tiếng Anh.

DIỆU LAN

参考9 リビングおかやま (2005.4.2)

一人のうら若き女性の
悲しい人生を、3254
行の長編詩につづったベ
トナム文学の金字塔「ト
ウイ・キオウの物語」。
グエン・ズー(1765
～1820年)が中国の
通俗小説「金雲翹(きよ
う)伝」を元に書き換え
たもので、教訓を含み、
ベトナムでは教科書にも
出てくる有名な話です。
この物語を日本語訳し
たのは、3月まで岡山県
土木部に勤務していた佐
藤清二さん(東京都在住)
と、作家の井上靖さんの
娘で詩人の黒田佳子さん
(横浜市在住)。

きっかけは佐藤さんが
河川調査のためベトナム
に数カ月滞在したときの
こと。この物語の英語版
に出会い、面白くて繰り
返し読んだそうです。
「帰国後、日本語版を探
しましたが見つからなか
ったのです」と佐藤さん。

●プレゼント この本を
抽選で10人に。ハガキに
住所、氏名、年齢、電話
番号を書き、〒700-
8613(住所不要)岡
山リビング新聞社「トウ
イ・キオウ」係へ。☎
(235) 1655、ホ
ームページからも応募
可。4月1日(月)必着。

ベトナム文学の金字塔

トウイ・キオウの物語

抽選で10人に

<http://www.lico.co.jp> (パソコン) <http://www.lico.co.jp/m/> (ケータイ)

LICO贈呈応募
540033



A5版252ページ・1680円
県内の主要書店で販売中

**ベトナム生まれの長編詩
「交流促進を」と翻訳出版
前岡山県参与の佐藤清二氏**



ベトナム文学の
代表作

ベトナムで生まれた長編詩「トウイ・キョウの物語」がこのほど、日本語に翻訳され出版された。訳者は、この3月まで国土交通省から岡山県庁に出向（土木部参与）していた佐藤清二氏。「岡山とベトナムの文化交流にお役に立てば…」との言葉を残して4月の異動で離岡した。

この物語は「1人のうら若き女性の波乱万丈の生涯を綴った」もの。原作

者はグエン・ズーで、元は中国の通俗小説から翻訳したものとされている。この長編詩は、今やベトナム文学の金字塔とされ、物語に盛られた教訓は小学校の教科書にまで取り入れられているという。

今回は、英訳されたものを日本語にしており、翻訳に当たっては、詩人の黒田佳子氏の協力も得ている。佐藤氏は勸国際臨海開発研究センター研究主幹としてベトナムに滞在したことがあり、当時の経験を生かして、ベトナム文学の代表作とされるトウイ・キョウの物語翻訳と取り組んだ。

発行は、吉備人出版（岡山市丸の内2-11-22）。仕様はA5判252頁。定価は1680円。県内の主要書店でも販売している。

Truyện Kiều lại được dịch ra tiếng Nhật. Đây là lần thứ tư *Truyện Kiều* được các dịch giả Nhật chuyển ngữ sang tiếng Nhật dựa vào các bản tiếng Việt, Anh và Pháp. Vừa qua, tại thành phố Okayama (Nhật Bản), bản dịch mới *Truyện Kiều* này đã được công bố với sự có mặt của các cơ quan văn hoá, văn nghệ sĩ, giới báo chí và đông đảo bạn đọc Nhật Bản cũng như các sinh viên Việt Nam. Để dịch được tác phẩm, ông Seiji Sato và bà Yoshiko Kuroda - đồng tác giả của bản dịch - đã dày công nghiên cứu *Truyện Kiều*. Theo hai ông bà, chính xuất phát từ sự hiểu biết *Truyện Kiều* và sự gắn bó, cảm mến đất nước con người Việt Nam mà họ muốn một lần nữa được thử sức với bản dịch mới, góp phần giới thiệu trọn vẹn hơn nữa kiệt tác văn học Việt tới bạn đọc Nhật.

CHÂU ANH

参考12 カフェサイゴン WEB マスターの感想文 (2005.3.22)

http://homepage1.nifty.com/Cafe_Saigon/index.htm

トウイ・キオウの物語を読み終わったところです。読み始めたときには、随分と読み終わるまでに時間がかかりそうだと思っていましたが、途中から引き込まれたように本を手放せなくなり、2日間で読んでしまいました。

トウイ・キオウの物語、またの名をキム・バン・キュウは、ベトナムの詩人グエンズーによって中国の古い物語を美しいベトナム語の詩物語に翻案されたものです。今回は佐藤清二氏と黒田佳子さんによって日本語に訳されたものを読みました。

私自身、月に何冊も本を読む読書好きな人間なのですが、トウイ・キオウの物語を読み始めたときは、なかなかページが進んでゆきませんでした。理由は簡単、いつもの簡単な口語体で語られた物語と違って、詩で作られた物語なので、とても美しい語り口でつくられていて、頭の中にその情景を思い起こしながら読み進むために、なかなか物語が進行してゆかないのです。

ところが、主人公の恋人が旅に出た際に、主人公の家族に襲い掛かる不当な役人の仕打ち、次々と襲い掛かる冷酷な宿命の物語が始まると、もう次にどうなるのか知りたくて、あっという間に最後まで読んでしまいました。

この詩篇はベトナム人の心をあらわしているといわれていますが、物語の中で尼僧に言わせているこの言葉が、とても印象的に感じました。

「人の幸、不幸は、前世からの因縁と共に、天の法にあらかじめ記されているものなのです。しかし、それでもその源は、実はやはり現世の私たち自身の生き様に由来しているのです。考えてご覧なさい。自制の心は幸せをもたらし、激情はただ苦痛をもたらします。」

中国に千年間、フランスに100年間、日本にも数年間ですが支配された苦悩の歴史をもつベトナム人の、心のよりどころをほんの少し垣間見たような、読み終わってそんな気持ちになりました。

ベトナム文学を日本へ紹介するために、自費出版をされた佐藤清二さんに、深く敬意を表したいと思います。

参考13 ベトナム国営ラジオ局 VOV ホームページ (2005.3.19 放送分)

http://www.vovnews.com.vn/2005_03_20/english/vanhua.htm

Another version of Kieu tales introduced in Japanese



Translator Sato Seiji announces Kieu tales version in Japanese

Another version of Truyen Kieu (Kieu tales) written by great writer Nguyen Du has been translated into Japanese. With assistance from poet Kuroda Yoshiko, Sato Seiji, who is an engineer from the Japanese Ministry of Land, Infrastructure and Transport, translated Kieu tales into Japanese from the English version penned by translator Le Xuan Thuy and published by the Literature Publishing House. Seiji said he is interested in Vietnamese literature and arts. "I have come to Vietnam, studying Kieu tales," said Mr Seiji. "I think it is a masterpiece and it is a pity that this work is not introduced to Japanese people. Through the translation, I want to bring the beauty of Kieu tales as well as of Vietnamese literature to Japanese people." Nguyen Du's Kieu tales have been translated into Japanese in 1942, 1975 and 1996 by Kiyoshi Komatsu, Yonosuke Takeuchi and Tokio Akiyama.

(和訳要旨) 『トウイ・キオウの物語』新たな日本語版が発行 ~ 訳者佐藤清二氏、『トウイ・キオウの物語』日本語版を発表

大作家グエン・ズー作『トウイ・キオウの物語』が新たに日本語に翻訳された。国土交通省のエンジニアである佐藤清二氏は、詩人黒田佳子氏の協力を得て、『トウイ・キオウの物語』をレ・スアン・トウイ訳で文学出版所発行の英語版から日本語に翻訳した。清二氏は、ベトナムの文学と芸術に関心があると述べている。「私はベトナムを訪問し、『トウイ・キオウの物語』を読んだ。この作品は傑作なのに、日本人に紹介されていないのは残念である。翻訳を通して、この作品をはじめベトナム文学の美しさを日本人に伝えたい。」グエン・ズー作『トウイ・キオウの物語』は、小松清(1942年) 竹内与之助(1975年) 秋山時夫(1996年)の各氏によって日本語に翻訳されている。

3254行の長編詩 ベトナム文学の金字塔 「トゥイ・キョウの物語」

岡山県土木部で港湾を担当する佐藤清二さんが、ベトナム文学の代表作「トゥイ・キョウの物語」を詩人の黒田佳子さんと英訳文から共同翻訳し、個人出版した。佐藤さんは「本書はベトナム人の心に触れる近道でもあり、ぜひ一読を」とさまざまな機会をとらえてアピールに余念がない。

この物語は、グエン・ズー (1765-1820) が、中国の通俗小説「金雲翹伝」(清・青心才人編) から翻案した3254行の長編詩で、ベトナム文学の金字塔といわれる。

小倉貞夫著の「物語ヴェトナムの歴史」(中公新書)の中では、「一人のうら若い女性の波乱万丈の恋しいストーリーに盛られた教訓は、小学校の教科書に取り入れられ、ベトナム人はしばしばこの物語の文章を日常会話の中に交える」と紹介されている。

共訳者の黒田さんは「多くの日本人が見失った自分たちの判断のよりどころを考えさせてくれる。登場人物たちの描写は、善人も悪人も生き生きとしていて、何度もの翻訳を経ても消えずに、なおも

岡山県土木部港湾担当・佐藤清二さん
詩人・黒田佳子さん 共同翻訳

「ベトナム人の心に触れる近道」

よみがえってくる力強い作品だ」と評する。

そして「一人の不運な女性の悲しみに読者も一緒に泣きたくなるような生々しく人間くさい面も、人間の一生を無限の闇にポッカーリ漂うカプセルのように感じさせる宇宙観も備えた物語」と巻末に記している。



「トゥイ・キョウの物語」の挿絵

翻訳に当たっては、外国人など日本語中級の読者にも読みやすいように、平易な表現の散文にするとともに漢字にはルビを振った。

佐藤さんは「今回の出版は、個人的には日越文化交流の促進を意図した」と動機を語っている。日本-ベトナム間では経済技術交流が進み貿易量も徐々に増えているが、「文化交流もバランスよく進展することが望ましい」と強調している。

本書はホームページ (<http://homepage3.nifty.com/daovaquat/>) で試読できる。

▷A5判上製、252頁▷定価1680円(税込み)▷発売=古備人出版(☎086・235・3456)

参考 15 メコン通信 117 号 (2005.3)

52

THÁNG 3/2005 ・ 平成17年3月

4 BẢN DỊCH TRUYỆN KIỀU RA TIẾNG NHẬT

Đặc biệt là có tới bốn, năm người Nhật đã dịch Truyện Kiều (金雲鰲, Kim Vân Kiều hay 金雲鰲新伝, Kim Vân Kiều Tân Truyện của Nguyễn Du) từ tiếng Việt hay qua bản tiếng Pháp, Anh ra tiếng Nhật. Truyện Kiều gốc từ bên Trung Hoa, người Nhật cũng từng dịch từ bản gốc ra tiếng Nhật nhưng không nổi tiếng. Thấy Truyện Kiều Việt Nam là tác phẩm văn học hàng đầu nên họ lại một lần nữa dịch từ bản phỏng tác bằng văn Nôm ra tiếng Nhật.

1- Người đầu tiên dịch là học giả Kiyoshi Komatsu (小松清, Tiểu Tùng Thanh), ông đã dịch từ bản tiếng Pháp.

2- Người kế tiếp là học giả Yonosuke Takeuchi (竹内与嗣之助, Trúc Nội Dư Tự Chỉ Trợ), ông đã dịch từ bản tiếng Việt năm 1975 và 1985.

3- Người thứ ba là ông Tokio Akiyama (秋山時夫, Thu Sơn Thời Phu), tác giả dành ra 6 năm để phiên dịch ra văn xuôi nhưng văn điệu như thơ. Được kể là bản dịch xuất sắc nhất, ông tự bỏ tiền in và phát hành chỉ có 600 cuốn năm 1997, nhân kỷ niệm sinh nhật thứ 80 của dịch giả. Cả ba người vừa kể nay đã mất.

4- Người thứ tư và năm là ông Seiji Sato (佐藤清二, Tá Đằng Thanh Nhị), và nữ thi sĩ Yoshiko Kuroda (黒田佳子, Hắc Điền Giai Tử) đã bỏ ra khoảng 1 năm rưỡi dịch toàn bộ ra văn xuôi từ bản tiếng Anh, dày hơn 250 trang, cũng tự bỏ tiền in 1.000 cuốn, giá 1.680 Yen, phát hành tháng 3/2005.

参考 16 『トウイ・キョウの物語』紹介メディア等

メディア等	番組・ページ等	日時
『地球の歩き方』	ベトナム・2008～2009年版 P450「こんな本を読んでみよう」欄	2008年10月
加藤万吏乃ソプラノリサイタルV	組曲「歌姫のめざめ」 黒田佳子作詞、池上眞吾作曲	2008年7月14日
フリー百科事典 『ウィキペディア (Wikipedia)』	トウイ・キョウの物語	2006年9月20日
DMOZ Open Directory Project	World > Japanese > アート > 文学 > 世界の文学	2006年7月14日
Yahoo! JAPAN	芸術と人文 > 文学 > 外国文学 > ベトナム	2005年9月7日
NHK 岡山放送局 (テレビ)	きびきびワイド 610	2005年3月30日 18:10-19:00 (6分間)
RSK 山陽放送 (ラジオ)	ボイスラジオ版 浜ちゃん石っさん得々耳典	2005年3月27日 14:00-14:20
ベトナム国営ラジオ局 VOV Radio the Voice of Vietnam	ニュース (参考 12 のとおり)	2005年3月19日

参考 17 『金雲翹伝』の伝播状況

